

すくなる。季節平均的な東西のコントラスト，冷たい海域での下層雲・霧の役割，が日々の高気圧の出現とどのように関わっているか更に研究が必要であるが，乾燥地域を中心とする昇温で東西の熱的コントラストが明瞭になる時期とオホーツク海高気圧が出現しやすくなる時期がほぼ一致する点は興味深い。

8. オホーツク海気団の季節変化について

菅野 洋光

ヤマセの吹走に重要な役割を担っているオホーツク海気団について，その成層状態の季節変化を，1985年を代表事例とし，オホーツク海を囲む高層気象観測点データ（地点番号25913, 31088, 31168, 32098, 32186, 32217）

を指定面ごとに半旬平均して調べた。その結果，6月から8月にかけて，その前後の時期と比較して $\theta_{e850}-\theta_{e surf}$ が大きく， $\theta_{e500}-\theta_{e850}$ が小さくなり，下層で安定した気団の生成が認められた。1985年の6月から8月にかけての天気図をみると，優勢なオホーツク海高気圧は6月下旬以降ほとんど出現しなかったが，持続期間が短く弱いものやオホーツク海で部分的に高気圧が形成される場合は多く（6月下旬から8月までで26日）認められた。一方，9月には $\theta_{e850}-\theta_{e surf}$ がほぼ0になるが，大陸との温度差が小さくなることがその原因として考えられる。また，10月から4月にかけては南北方向の温度傾度が大きくなり，オホーツク海気団は存在しないと考えられる。

第18回日産学術研究助成候補募集

第18回（平成3年度）日産学術研究助成募集を行っているのでお知らせします。

なお，一般助成(A)，(B)の推薦につきましては，財団の限られた資金による助成の視点として，一般的に研究費の得にくい若手・中堅層の優れた意欲的な研究を重視したいと考えております。また，助成の趣旨に鑑み，他の学・協会との関連領域を踏えた学際的研究グループについても対象となります。

記

1. 推薦件数

一般研究助成(A) 2件以内

同 上(B) 2件以内

計4件以内（推薦枠が変更になっております）

奨励研究助成 枠外で原則として全件推薦

2. 推薦審査

審査にあたり次の事項にご配慮ください。

2-1 一般研究助成(A)，(B)は特に制約条件を設けておりませんが，上記趣旨に基づき若手・中堅の研究者の意欲的な研究を考慮願います。

2-2 参考として当財団では以下の基準により審査し，選考しております。（奨励研究は①と④を重視）

〔参考〕

- ①重要性：内容が独創的，先駆的で，学術的な意味が大きいか。
- ②明確性：研究目的が明確であり，さらに研究計画，体制などが詰められており実現性が高いか。
- ③適合性：民間財団の助成にふさわしい研究であるか，将来的にその成果の学術的または社会的意義はどうか。
- ④期待性：研究者のこれまでの研究活動から見て，応募テーマに対する成果が大いに期待できるか。

3. 推薦者

学・協会の代表者として。

4. 推薦手続

所定の推薦用紙（申請書）に必要事項を記入し，当財団あてに1部を送付願います。全体の応募状況を，応募状況通知書に記入し，併せて送付ください。（推薦用紙は，希望者に当財団より直接お送りいたします。）

5. 締切日

1991年8月31日（土）必着

6. 申請書

2部気象学会にあります。